

米利下げ期待・ドル安・有事で堅調な金価格 ～他資産との分散で、運用効率の向上に～

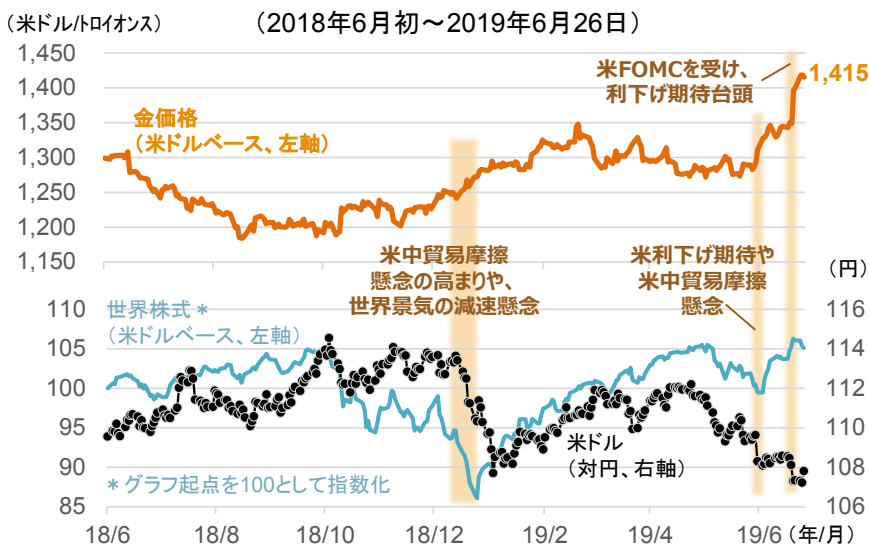
米利下げ期待の高まりや米ドル安に加え、米中貿易摩擦、中東情勢の緊迫化などによる投資家のリスク回避姿勢を背景に、金価格が堅調に推移しており、足元で、2013年9月以来となる1トロイオンス＝1,400米ドル台まで上昇しています。

金は実物資産であることから、インフレや有事(リスク回避局面)に強く選好される一方、利息が付かないため、金利上昇局面では弱含む傾向にあります。また、代替通貨としての性質から、米ドルと逆の値動き(逆相関)となる特徴があります。そのため、米国が利上げ姿勢を強め、米ドル高基調となった2018年の金価格は軟調となりましたが、昨年11月半ば以降は、世界景気の減速懸念が広がったほか、米ドル安を受け、金は上昇に転じました【図表①】。その後も、米中関係や中東情勢の悪化に加え、米国の利下げ期待が高まったことなどを材料に金は強含んでおり、当面、こうした環境が続くと見込まれ、底堅い推移が期待されます。

そのなかで改めて着目したいのが、分散手段としての「金」の役割です。前述のように、金は、有事における強みや米ドルとの関係に加え、宝飾品需要や、各国中央銀行による外貨準備目的での需要などもあり、株式や債券とは異なる値動きの傾向にあり、分散投資によるリスク低減効果が期待されます。【図表②】では、世界株式、世界債券、金に単体で投資した場合と、それらに分散投資した場合における円ベースでのリスク・リターンを示しています。これをみると、金単体での投資は、2000年以降、高いリターンとなりましたが、投機資金なども流入しやすいため、リスクも高くなる傾向にあります。ただし、世界株式と世界債券に分散投資をする際、金を一定割合加えると、円換算した場合でも2資産分散の場合以上のリスク低減効果がみられ、金をあわせ持つことにより、投資効率の向上が期待されます。

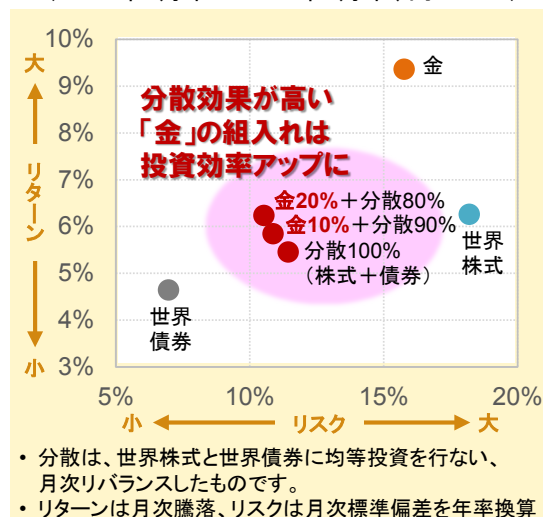
足元の金融市場は、先行き不透明な状況が続いており、投資家もリスクに慎重姿勢を強める傾向にあります。また、近年は予期せぬ出来事で市場変動が高まる場面も多くみられます。こうしたなか、市場の変動と長期で上手に付き合うには、分散投資によるリスク低減が重要であり、金への投資は、その有効な手段と考えられます。

【図表①】金価格と米ドル(対円)、世界株式の推移



【図表②】リスク・リターン水準

(2000年1月末～2019年5月末、円ベース)



金: NY金先物、世界株式: MSCIワールド指数(配当込)、世界債券: FTSE世界国債指数 信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成
※ 上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。